

# 令和5年度卒業証書・学位記授与式式辞

学 長 森 下 宏 美

卒業生のみなさん、修了生のみなさん、まことにおめでとうございます。心よりのお祝いを申し上げます。

本学で過ごされた年月を、みなさんは今どのように振り返っているでしょうか。いまから4年前、2020年の新学期は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、厳しい行動制限のなかで始まりました。授業はオンラインとなり、教室で互いに挨拶をかわすことも談笑することもできませんでした。また、クラブ活動・サークル活動を思う存分楽しむこともできませんでした。それが3年続きました。みなさんが思い描いていた大学生活とはほど遠いものだったに違いありません。学業の面でも課外活動の面でも、そして生活の面でも、さまざまな苦勞を強いられましたでしょう。また不安にかられた日々もあったでしょう。それらを乗り越えて、今日みなさんは卒業の日を迎えました。万感の思いが込みあげます。

わたくしは、昨年4月に学長に就任いたしました。その際の学長メッセージとしてわたくしは、「北海学園大学での4年間を、自らのよき人生を築くための時間として過ごしてほしい、そしてその人生が、よき社会の実現と重なり合うものであってほしい。本学での人との出会い、そして学問との出会いが、みなさんをそのような人生に導いてくれることを願っている」と述べました。コロナ禍のもとにはありましたが、みなさんにとって、本学で過ごした時間が、そのような出会いに満ちたものであったならば、これにまさる喜びはありません。

これまでみなさんが経験した「卒業」は、上級学校への進学を意味しましたが、本日の「卒業」が意味するものは、仕事を通じて人々と関わりながら生活を営む現場としての社会へのスタートです。そこには、学生時代には経験しなかった苦勞も待っていますが、本学で培ったあらゆるもの、人とのつながり、専門的知識、教養、そして学問する力を活かしてその苦勞を乗り越え、一人ひとり、よき人生を歩んでほしいと願っています。

そして、わたくしは、そうしたみなさん一人ひとりのよき人生が、よき社会の実現と重なり合うものであってほしいと、強く願ってまいります。それは、よき社会なくして、私たちのよき人生はないからです。コロナ禍は、わたしたちの日々の生活が、いかに多くの人々の多様な仕事のネットワークの上に成り立っているかを、あらためて気づかせてくれました。残念ながら、コロナ禍で傷ついたそのネットワークの一部はいまだ回復せず、わたしたちの暮らしに影を落としています。

コロナ禍ばかりではありません。少子・高齢化、人口減少も、私たちの暮らしを脅かしています。これまで当たり前のように享受できていたモノやサービスが、これからは容易には手に入れることができなくなるかもしれません。とくに北海道は、少子・高齢化、人口減少の速度が速く、

その意味で課題先進地域と言われていています。他方で、食糧安全保障問題、地球温暖化問題、エネルギー問題の解決において北海道が発揮しうる潜在力に注目が集まっていることも事実です。

課題は北海道に限ったことではありません。私たちは今、地球環境、格差と貧困、平和と人権、健康と福祉などをめぐって、日本社会として、そして地球規模で解決しなければならない諸課題に直面しています。北海道の地域課題もこのことと無縁ではありません。同時に、ICTやAIの発達、グローバル化の進展が、私たちの暮らしや仕事を大きく変えつつあります。みなさんがこれから就かれる仕事は、どのような分野のものであれ、これらの新しい課題、新しい現実への挑戦となるでしょう。そこには、新しい知恵の創造と、その知恵を活かす人々の共同が求められます。

みなさんは、本学での学びを通じて、学問する力を身につけました。学問する力こそは、みなさんのこれからのさまざまな挑戦にとって、大きな助けとなるものです。学問とは、他者と共有できる新しい知を生み出そうとする、社会に開かれた能動的な活動だからです。みなさんには、これからも、この学問する力をもっともっと磨いてほしい、そして、それぞれのよき人生を花開かせていただきたい、そのように願っています。みなさんの未来が明るく輝かしいものであることを心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。